

学校名	和歌山県 橋本市立 信太小学校

活動のテーマ	自らの命を守り抜くために主体的に考え、行動することのできる児童を育成する。
主な教科領域等	教科領域（ 総合的な学習の時間、特別活動 ）
活動に参加した児童生徒数	（ 6 学年 3 人 ）（複数可）
活動に携わった教員数	4 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	200 人 【保護者・地域住民・その他（ 行政職員 ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	平成30年5月7日 ～ 平成31年3月15日
想定する災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂 その他（ ）

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

本校では、これまでも避難訓練や防災訓練を定期的に行ってきた。しかし、活動そのものが、点としての活動に終始しており、面として系統的に進められていない現状があった。自ら考え、判断し、行動でき、自ら生き抜く児童を育成するには、カリキュラムの見直し等を行い、ねらいを明確にした取組が必要であると考える。

また、地域が少子高齢化になるなかで、今後の地域の防災活動をどう進めるか等についても課題である。児童が持続可能な社会づくりの担い手として、学校で学習したことを地域や家庭に発信していくことで、これらの課題解決をめざすとともに、児童自らの防災意識の向上や主体的に行動できる力の育成を図りたい。

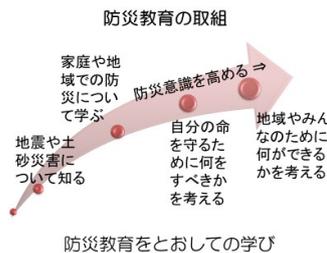
2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

①地震そのものを理解し、過去の地震や災害について知る。

②防災キャンプ等の体験活動を通じ、生き抜くための必要な技能を身につける。

③校区内の危険箇所を調べ、防災マップ作成を行う。

④自分たちでできることを考え、家庭や地域に発信する。



防災教育年間計画

実施月	学習活動	体験活動	教科等との関係
4月			安全な重下駄(学活) 防災マップ作成(学活)
5月	防災マップ	ひまわりプロジェクト(特別活動)	健康で安全な生活(学活)
6月	避難に入りの学習 巨大地震で起こる災害について(特別活動)	避難訓練(火災)	その思いを大切に(学活) 命の大切さ(学活)
7月		応急手当講習	ようこそ私たちの町へ(特別活動)
8月			
9月		防災キャンプ(防災意識を高め、防災マップ作成、火災に備えるための体験活動)	自ら命を助ける(特別活動) 未来がよりよくなる(特別活動) 命の大切さ(特別活動)
10月	防災マップ作成 家庭で取り出し防災準備 家族一斉の記入	防災マップ作成 後日、郵送にて発表	防災意識を高めよう(特別活動) 命の大切さ(特別活動)
11月	学校、家庭での危険箇所の調査	避難訓練(地震)	大勢のつよ変化(特別活動) 命の大切さ(特別活動)
12月	家庭で取り出し防災準備 非常持出品、備蓄品	避難訓練(地震)	命の大切さ(特別活動) 命の大切さ(特別活動)
1月			わたしたちの心(特別活動) 命の大切さ(特別活動)
2月	防災学習まとめ	NHK防災サイマル	自然と共生(特別活動) 命の大切さ(特別活動)
3月			命の大切さ(特別活動) 命の大切さ(特別活動)

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

○自校の実践： 気仙沼市防災シートの活用をし、本年度の防災教育計画の見直し、防災マップ作成、非常持ち出し袋の用意等を行った。

○変更・改善点： カリキュラムを見直すことで、活動が系統的なものに変わり、地域を巻き込みながら地域とともに防災を考えることができた。また助成金の活用で、防災キャンプ等のよりリアルな体験活動ができた。

#### 4) 実践の成果

##### ①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・新学習指導要領、ESD の視点で、防災教育を位置づけることにより、「防災教育を通した生きる力の育成」や「持続可能な社会の構築」について意識的に取り組むことができた。
- ・気仙沼市防災シートを活用し、防災カリキュラムを改善することで、災害や防災についての学びを系統的に進めることができ、防災学習をより深めることができた。

##### ②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- ・災害発生のメカニズムや校区内の起こりうる災害等について理解することができた。(知識・理解)
- ・自分たちの地域の探検や防災マップ作成等により、災害時の未知なる状況における判断力、問題解決能力を高めることができた。(判断力、対応力)
- ・防災の学びを通して、災害と自分との関係性に気づかせ、当事者意識をもって減災や持続可能な地域づくりに向けて取り組む態度を育むことができた。(態度)

##### ③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- ・教師が地域を歩いて回ったり、地域の方等様々な人から話を聞いたりすることにより、地域をより詳しく知ることができ、地域や関係機関とのコミュニケーションを深めることができた。
- ・学校での防災の学びを家庭や地域に広げることで、保護者や地域の防災に対する意識も深まった。
- ・「防災キャンプ」「信太小学校秋季運動会」を地域とともに実施し、「地域とともにある学校づくり」を推進することができ、地域住民同士の交流も深まった。
- ・また、和歌山大学や市危機管理室との連携も深まり、今後の相互連携した防災学習をするステップとなった。

#### 5) 自校の実践で工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

- 学校が閉校するなか、地区公民館が主となり、信太地区が防災キャンプと運動会を併せて防災運動会として位置づけ今後も継続させる計画ができあがった。地域住民の防災意識の高揚及び地域コミュニティの交流による今後の地域づくりが期待される。
- 毎月開催される信太地区区長会に学校長が毎回出席し、防災活動の内容や今後の方向性について協議した。

#### 6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- 教訓：学習指導要領に基づいたカリキュラムへの位置づけ、地域との積極的なコミュニケーションによる協働、三種の神器(カリキュラム作成、システム構築、ガバナンス)の重要性
- 課題：小中一貫した9年間のカリキュラム作成、教職員・保護者・地域における防災に対する当事者意識の高揚、それぞれの果たすべき防災取組の明確化、ガバナンスの認識と行動化(市教委へのアプローチ)

#### 7) その他 (※特にあれば記述)

※写真や画像、補足資料などがある場合は、添付してください。

(添付資料の  有 ・  無)

# 地域とともにある学校づくり ～防災教育の取組～



平成30年度近畿ESDコンソーシ  
アム実践交流会  
橋本市立信太小学校

# 私たちの橋本市



# 今日 発表すること

## ① 学校紹介

本年度の特徴的な学校教育活動

## ② 本年度の防災教育の取組

防災教育計画

取組の具体例

教員研修（アクサユネスコ減災教育プログラム）

## ③ 成果と課題



# 信太小学校の紹介

- 橋本市の北西部、大阪府境に位置する
- 自然が豊か
- 人口が減少 高齢化
- 児童数も減少 児童数3名
- 平成30年度末に閉校



# 信太小学校教育目標

- 「学びあい、認めあい、つながりあい、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」
- 本年度の合い言葉  
「M I N T の香る学校にしよう！」
  - M . . . みんなで
  - I . . . いい笑顔で
  - N . . . 仲よく
  - T . . . 楽しく

# 本年度の特徴的な活動

- ・NPO法人チームふくしま「福島ひまわり里親プロジェクト」の継続
- ・第72回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」野生生物保護功勞者表彰式(東京都)において「林野庁長官感謝状」を受賞
- ・「人権教育総合推進地域事業」の(国)研究指定 (最終年度)
- ・FM大阪主催「小さな音楽会コンクール」全国大会に出場
- ・「防災キャンプ」を地域とともに実施
- ・アクサユネスコ減災教育プログラムを実施
- ・「信太小学校秋季運動会」を地域とともに実施
- ・「信太小学校の跡地を考える住民熟議」を開催
- ・「地域とともにある学校づくり」の推進
- ・第125回卒業証書授与式、閉校イベントの開催、記念誌の作成

# 「福島ひまわり里親プロジェクト」

2011年 5月

スタート



たびくまん  
福島県に住んでいるよ

福島ひまわり里親  
プロジェクトとは？  
2011年3月に発生した  
東日本大震災後、  
福島県に  
「復興のシンボル」として  
ひまわりを植えよう」と  
始まった活動です。



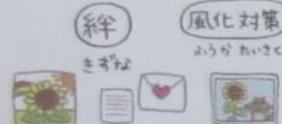
知的作業所  
「なごみ  
和」さん  
種を買ってくれたおともだちのもとへ  
種を送ります。これは 知的作業所の  
みなさんの **仕事** になります。



for you for japan  
日本全国各地のおともだちに種が届きます。  
これから種を植えて、みんながそれぞれの  
住む場所でひまわりを育てます。



げんきに  
おどろきなふーれ  
福島のことを思いながら  
心をこめて育てます。  
元気な花がさくといいな



絆  
風化対策  
種といっしょに届いた紙や、手紙や、写真は  
市役所や信用金庫、駅など  
いろいろな場所で展示されています。  
駅前電車内で 貸し出し展示も行われました。  
ひまわりのがぞくだ！ たいがぞくだ！



ひまわりがさいて  
種がとれたら...



福島に たくさんの ひまわりがさいて、  
大きなひまわりばかりもできました。  
全国のおともだちが  
ひまわりを見て 福島に  
観光にも 来てくれます。



みなさんから届いた種を  
福島の駅や、旅館、お店、  
幼稚園、小・中学校、高校、  
広い火田など たくさんの場所には  
植えて育てます。



今までに 10万人以上の おともだちが、5トン以上の  
ひまわりの種を送って来ました。  
みんなの思いが、たびくまんや、  
福島のおなさんに届きます。

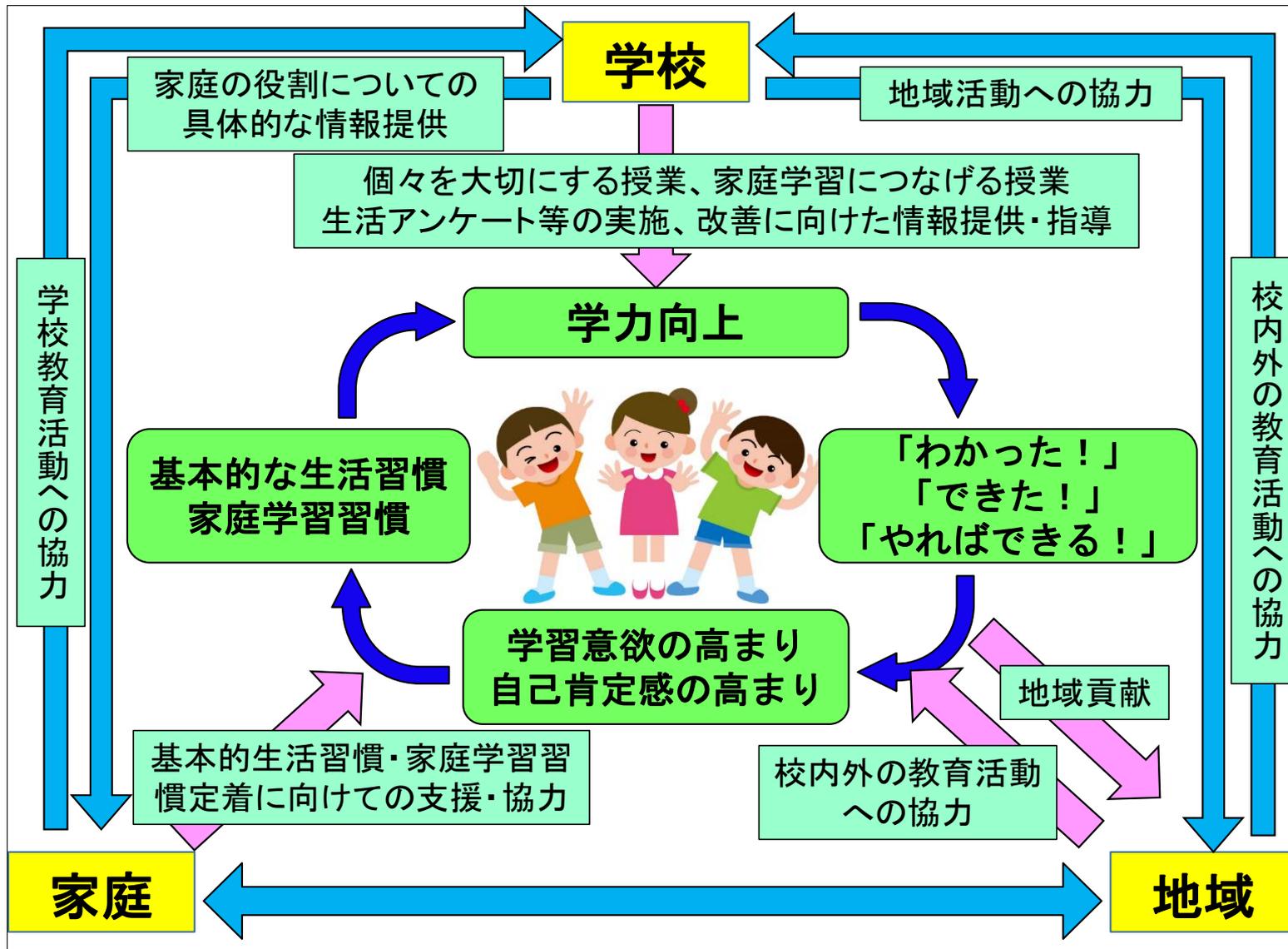


たびくまんのいる 福島へ 種を送ります。  
家族で、地域で、学校で、ひまわりを育てて、  
種を送ってくれる おともだちもいます。

# 「福島ひまわり里親プロジェクト」



# 人権教育総合推進地域事業



# 和太鼓



# 秋季運動會



# 地域とともに



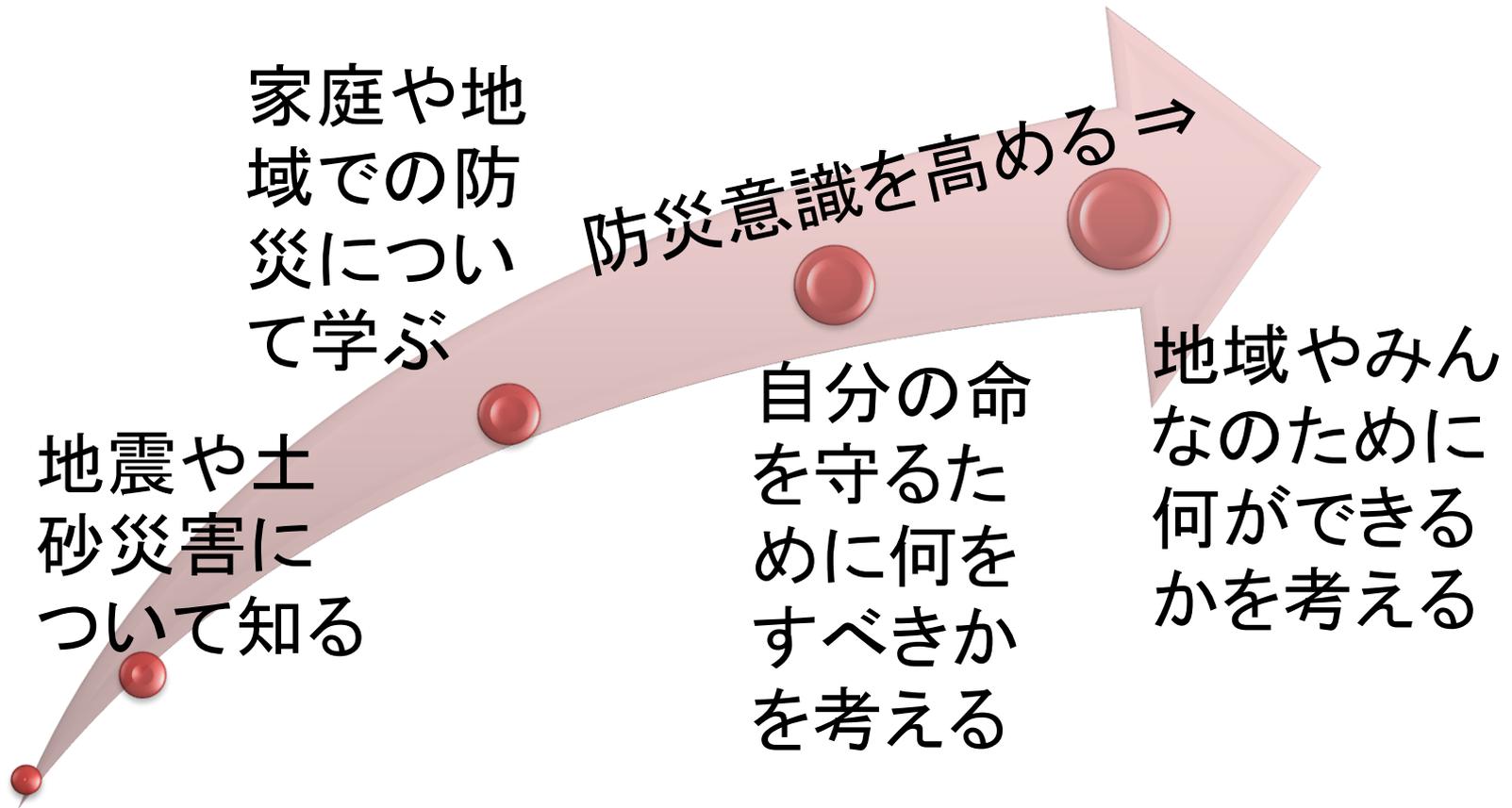
# 本年度の防災教育の取組

## 【防災教育の目標】（教育計画より）

「自らの命を守り抜くために主体的に行動することのできる児童を育成する」

- ①災害発生のメカニズムや地域の防災体制について理解し活用できるようにする。（知識の取得と活用）
- ②自ら危険を予測し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できるようにする（判断力・行動力）
- ③進んで他の人々の地域の安全・安心のために役立つことができるようにする（貢献する態度）

# 防災教育の取組



防災教育をとおしての学び

# 防災教育年間計画

実施月	学習活動	体験活動	教科等との関連		
4月			安全な登下校(学活)	「どんな心が見えますか」規則の尊重(道徳)	
5月	・防災テスト	・ひまわりプロジェクト開始	健康で安全な生活態度(学活)		
6月	・地震についての学習 ・信太地区で起こりうる災害について(市役所危機管理室)	・避難訓練(火災)	病気の予防(体育)	「その思いを受けついで」生命の尊さ(道徳)	
7月		・応急手当講習	ようこそ私たちの町へ(国語)		
8月					
9月		・防災キャンプ(防災倉庫見学、防災グッズ作成、火おこし、非常食づくり、災害図上訓練DIG)	未来がよりよくあるために(国語)	「はじめてのアンカー」家族愛、家庭生活の充実(道徳)	
10月	・防災マップ作成事前 ・事後学習	・防災運動会の開催 ・防災マップ作成 後日、地域にて発表	秋季運動会(体育)	「美しいお面」感動、畏敬の念(道徳)	
11月	・学校、家庭での地震時の危険 ・家庭で取り組む防災準備 避難カードの記入 家族会議	・避難訓練(地震)	大地のつくりと変化(理科)	「マザーテレサ」勤労、公共の精神(道徳)	
12月	・家庭で取り組む防災準備 非常持出品、備蓄品	・避難訓練(不審者) ・非常持出品の収集	新しい日本への歩み(社会)	地震や火山活動から暮らしを守る(理科)	調理実習(家庭)
1月			わたしたちの暮らしと政治(社会)	地震がみんなの生活をこわすとき(人権しあわせ)	
2月	・防災学習まとめ	・NHK防災サバイバル	自然とともに生きる(理科)		
3月			考えようこれからの生活(家庭) 病気の予防(体育)	生き物はつながりの中に(国語)	「いのちのボタン」(人権しあわせ)

## 取組の具体例

# ①防災キャンプ

### 信太小学校 信太地区防災キャンプについて

- 1 日時 平成30年9月8日（土）9：00～15：30（雨天決行）  
※ただし、暴風、大雨洪水警報発令時は中止
- 2 場所 信太小学校体育館及び中庭
- 3 参加対象 信太小学校児童とその保護者、信太7地区住民 100名程度
- 4 目的
  - 児童の防災意識を高め、今後の防災活動や災害対応において主体的に活動できる児童を育てる。
  - 地域住民同士や小学校と地域住民との連携を強めるとともに、訓練や体験活動をとおして、地域の防災力を高める。

# 取組の具体例 ①防災キャンプ

5 日 程（各活動の時間設定）

【午前の部】 9：00 体育館集合（区ごとに並ぶ）

時間	活動内容	主担当
9：00～	①参集訓練（区ごとに受付・名簿作成）	辻脇
	②開会挨拶	辻脇
9：20～	③全体説明「地震について、信太地区の危険箇所等について」 DVD鑑賞（3.11.メッセージ 48分）	危機管理室 和大 今西先生
10：30～	④避難グッズ作成（2班に分かれて④⑤の活動を行う）	和大 今西先生
	⑤防災倉庫見学及び説明（中身の確認、使い方等の説明）	危機管理室
11：30～	⑥非常食作り体験（湯沸かし、アルファ米調理等）外で	和大 今西先生
	非常食で昼食～後片付け～休憩	

【午後の部】 13：30開始 集合場所 体育館（又は視聴覚室）

時間	活動内容	主担当
13：30～	⑦避難所運営について（災害図上訓練（DIG）の活用）	和大 今西先生
14：30～	⑧家庭でできる防災、地域で取り組む防災活動について	和大 今西先生
15：10～	⑨本日の活動の振り返り	辻脇
～15：30	⑩閉会	辻脇

## 取組の具体例

# ①防災キャンプ



## 取組の具体例

# ①防災キャンプ



## 取組の具体例

# ②秋季運動会

防災の要素を取り入れた運動会について（各種団体長協議会協議）

### ★趣旨

防災訓練を運動会形式で開催し、地域住民が楽しみながら防災を学び、交流し、防災意識の高揚と地域防災力の向上をめざす。

★参加対象 地域住民、各種団体、学校、自治体等

### ★種目例

- 担架リレー
- 水バケツリレー
- 土嚢積みレース
- 防災パネル展示
- 防災〇×クイズ
- 消火器消火ゲーム
- 防災障害物リレーゲーム 防災借り物競走
- 「火事だー」大声競争

### ★本年度の取組

本年度も例年通り、消防団の協力のもと、上記の種目、2～3種目を運動会に組み込み実施する。

## 取組の具体例

# ②秋季運動会



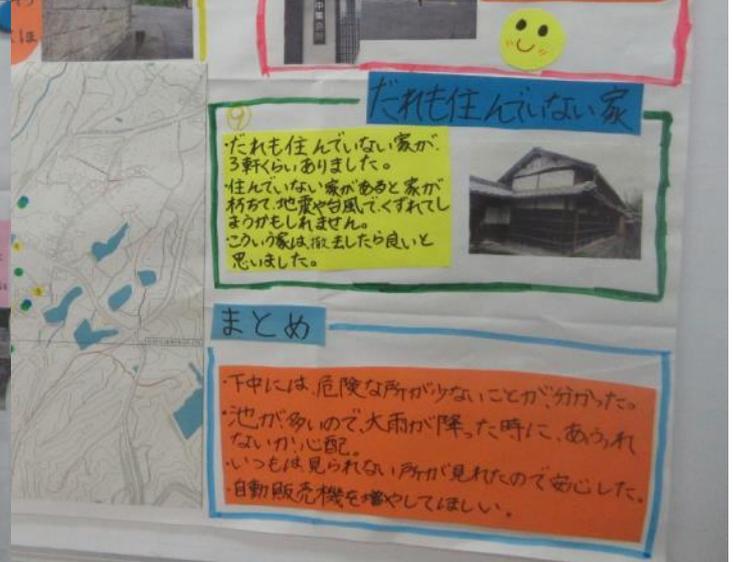
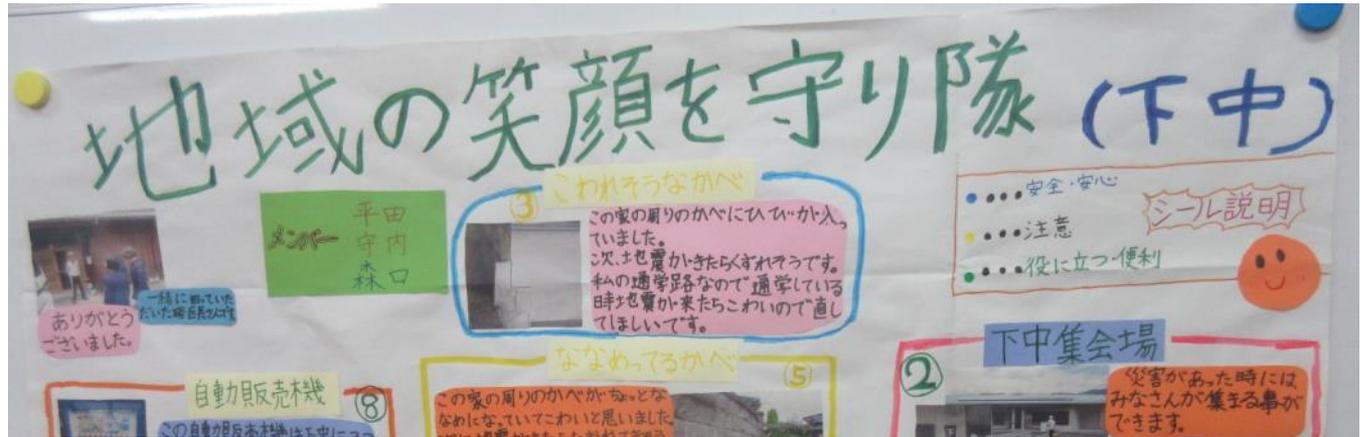
## 取組の具体例

# ③防災マップ作成



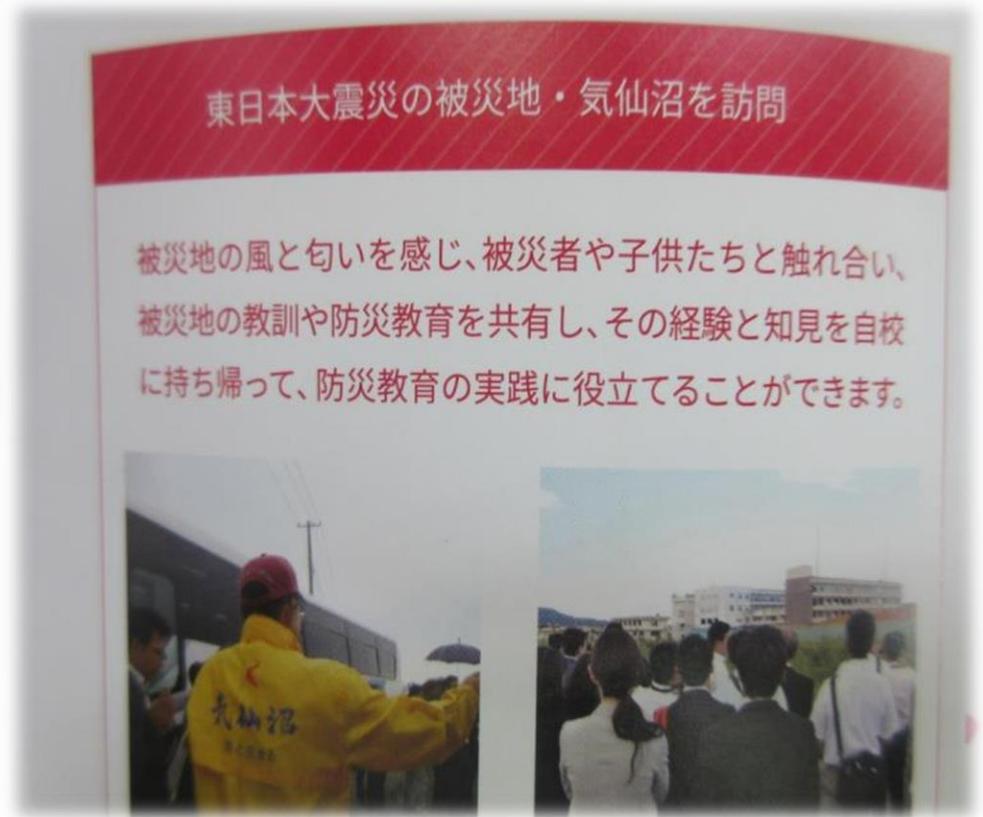
# 取組の具体例

## ③防災マップ作成



取組の具体例

## ④教 員 研 修



# 取組の具体例 ④教 員 研 修

## アクサユネスコ減災教育プログラム 教員研修日程

### 【第一日目】

- 研修1 「減災・防災教育の基礎と理論」 及川幸彦 講師  
研修2 「震災遺構から学ぶ」 大川伝承の会 鈴木典行代表 只野さん  
石巻市立大川小学校旧校舎を視察

### 【第二日目】

- 研修3 「減災・防災カリキュラムの開発手法と実践」  
気仙沼市立面瀬小学校 熊谷久恵教諭  
研修4 「小学校における防災教育の展開」 気仙沼市立階上（はしかみ）小学校  
研修5 「中学校における防災教育の展開」 気仙沼市立階上中学校  
研修6 「被災地と証言から学ぶ」 杉の下慰霊碑視察  
階上観光協会会長 辻隆一氏より  
研修7 「高校における防災教育の展開」  
多賀城高等学校 校長 佐々木克敬氏より

### 【第三日目】

- 研修8 「気仙沼教育委員会 挨拶と講話」 齋藤益男教育長より  
研修9 「減災・防災教育推進のためのネットワーク構築の意義と用法」  
研修10 「ワークショップ」 各グループで今回の研修のまとめ  
総評

# この研修で学んだこと

(資料の一部は研修会での資料をそのまま活用させていただいております)

- ① 大川小学校 震災遺構での学び
- ② 防災教育カリキュラム
- ③ 階上小学校・中学校の実践
- ④ 防災教育の推進



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

---

- ・地震が起きてから、津波にのみ込まれるまでの詳細、津波直後、その後の市教委等の対応等の詳細を聞く。
- ・74名の児童、10名の教員が犠牲になった。
- ・これまで津波経験のない地域で、ハザードマップを信じていた。橋のたもとの三角地帯が避難場所とされていた。
- ・学校防災を考えるスタート地点として、この校舎を震災遺構として残すことを決意した。
- ・大川伝承の会として、風化させないためにも、「伝える」ことを続けている。

# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

- ・地震が起こってから、津波が来るまでの51分間、避難したグラウンドで何が起きていたのか？
- ・命を守る。教員が子どもを守らなければならない。
- ・事後の市教委等の対応にまずさがあったのではないか。
- ・二度と悲劇を繰り返さないために「事実は何か」を知りたい。つらいからこそ、あったことを伝えなければならない。
- ・市と県は、事前の防災体制の過失を認めて賠償を命じた仙台高裁判決を不服として、最高裁に上告している。

仙台高裁判決：児童23人の遺族が提訴。4月26日の高裁判決は、学校の近くに川があり、津波に襲われる危険性は予見可能だったと指摘。危機管理マニュアルに避難場所や経路を定めなかったとして、市と県に約14億3600万円の賠償を命じた。

# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

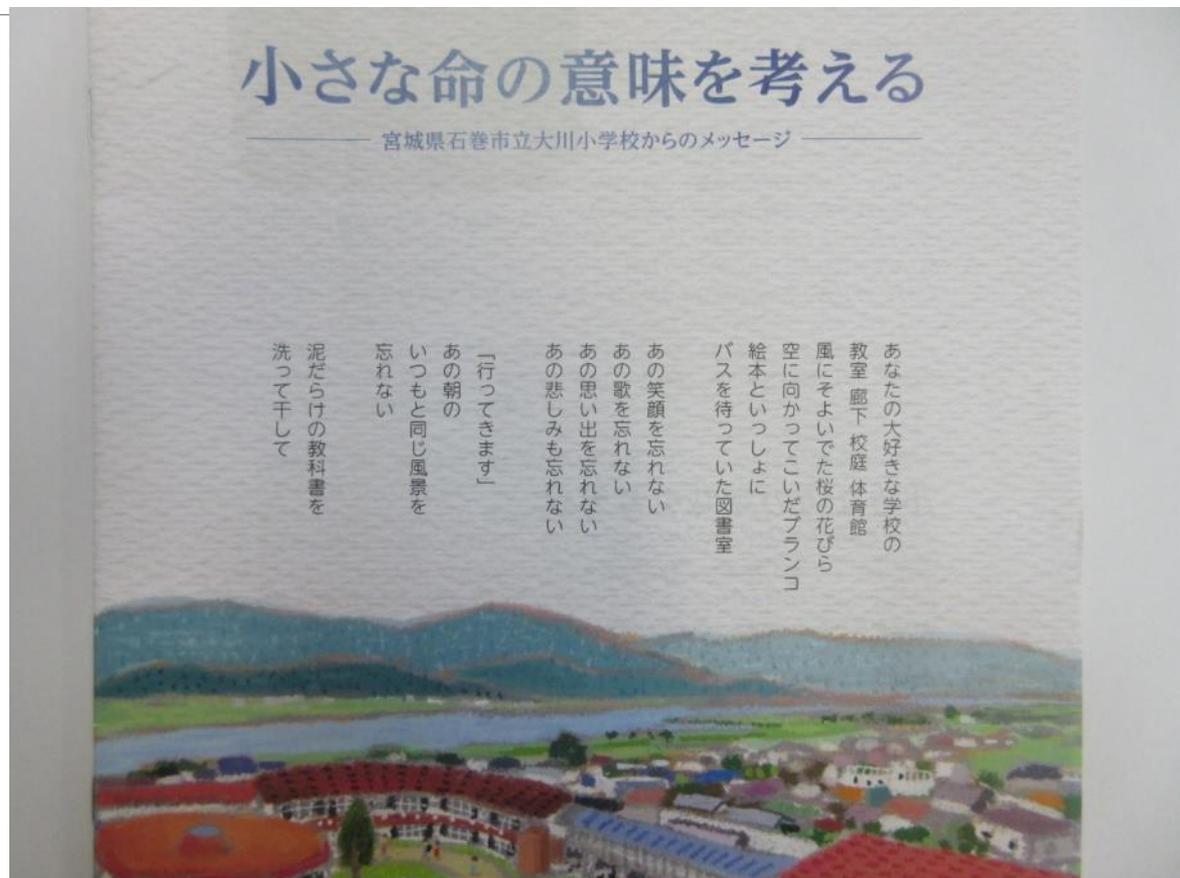
---

- ・今設定されている各校の避難場所は具体的か。訓練、マニュアルはそのままでもいいのか検討してみる必要がある。
- ・マニュアルは職員、地域合同で作成すべき。教員は地域を知るべき。地域の話の話を聴くべきである。
- ・冊子を作成した。これまで6万部配布した。
- ・生き残った教務主任は、現在も休職中で7年目となる。
- ・学校組織、学校での対応についての意思決定の在り方が問われている。

# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

学校管理下での事故 学校に70数名の児童 11名の教員

**14:46 地震発生**  
体験したことのない強い揺れ

**14:52 大津波警報**  
かつてない緊迫した警報

**15:37 津波到達**

**A 体育館裏の山**

平成21年まで毎年3月にシイタケ栽培の体験学習が行われていた。傾斜は9°。



▲ マラソン大会コースのすぐ脇、全校児童・教員全員が知っている。

◀ 毎年行われていたシイタケ栽培の体験学習。

◀ 海側からの写真。  
● はシイタケ栽培で登っていた位置。  
★ はBの写真で登っていた位置○。  
青線——は津波の高さ。

**B 校庭脇の山**

崩れないように土留め工事が施されている。低学年の授業でも登っている。



▲ 登ったところ★は幅4mほどのコンクリートのたきになっている。青線——は津波の高さ

◀ 山の上での授業の様子。〔「学級たより」より〕

※この他、アオダモの木を植樹した「バントの森」の山が、徒歩5分ほどのところにある。

広報車、防災無線  
「津波が来ます、高台へ」

ラジオ 指揮台の上

先生 地区民

スクールバス  
会社から無線で避難指示  
方向転換し待機

子どもたち  
「ここにいたら死ぬ」  
「山さ逃げっぺ」

時間はあった 助かる手段は全員が知っていた  
大津波警報は全員に伝わっていた

なぜ50分間校庭にとどまったのか  
子どもを守る組織として機能できなかった

# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

---



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

---



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

学校名	マニュアル等における第三次避難場所
小学校	学校裏山
第一小学校	<u>高台</u>
小学校	成田山・緑地公園
→ 大川小学校	<u>近隣の空き地・公園等</u>
小学校	新山神社境内
→ 小学校	<u>該当市町村が指定する広域避難地▲</u>
小学校	石巻市立女子高等学校校庭
小学校	津波到達時間30分以内は屋上、30分以上は住吉中校
小学校	山下中学校庭ソフトボール練習場、広域避難場所、校舎
→ 小学校	<u>該当市町村が指定する広域避難地▲</u>
小学校	大盤平・電子工場跡地
→ 中学校	<u>市指定の避難所</u>
大川中学校	校舎3階
中学校	校舎屋上か正面の山
→ 中学校	<u>該当市町村が指定する広域避難地▲</u>

# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

---



# ① 大川小学校震災遺構に学ぶ

---

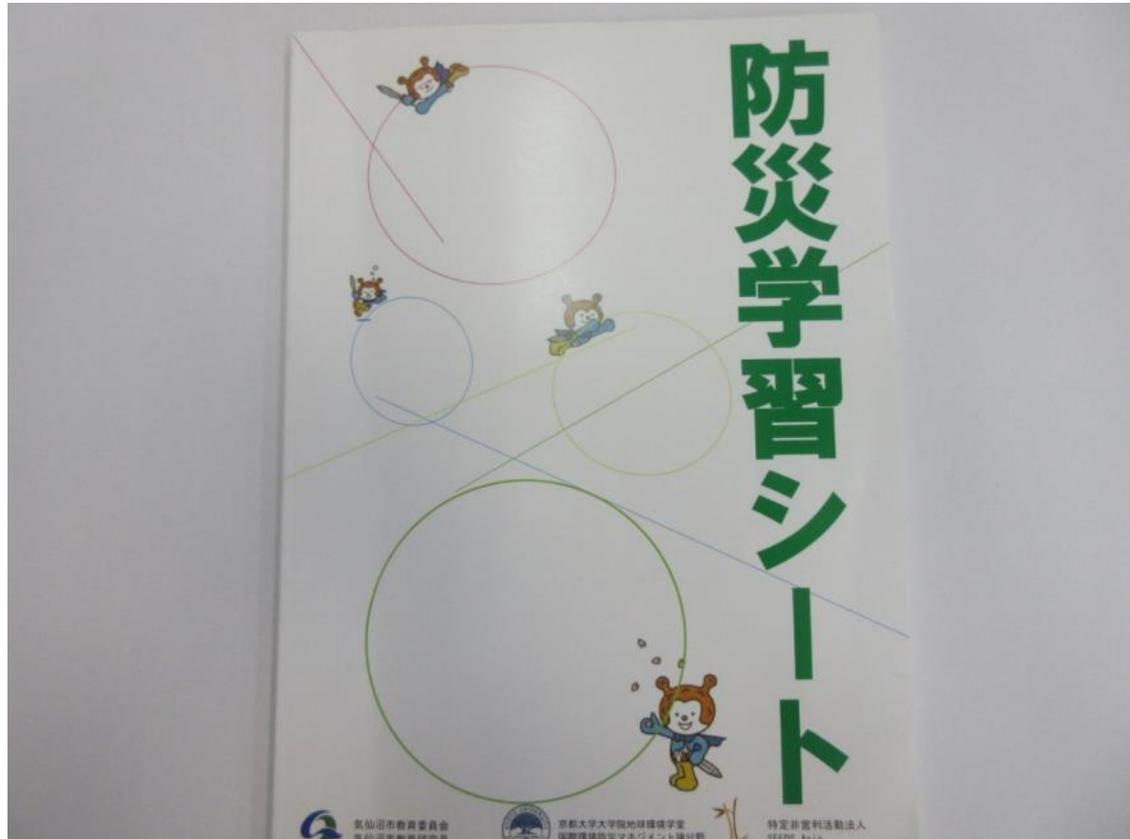


## ② 防災教育カリキュラムを考える

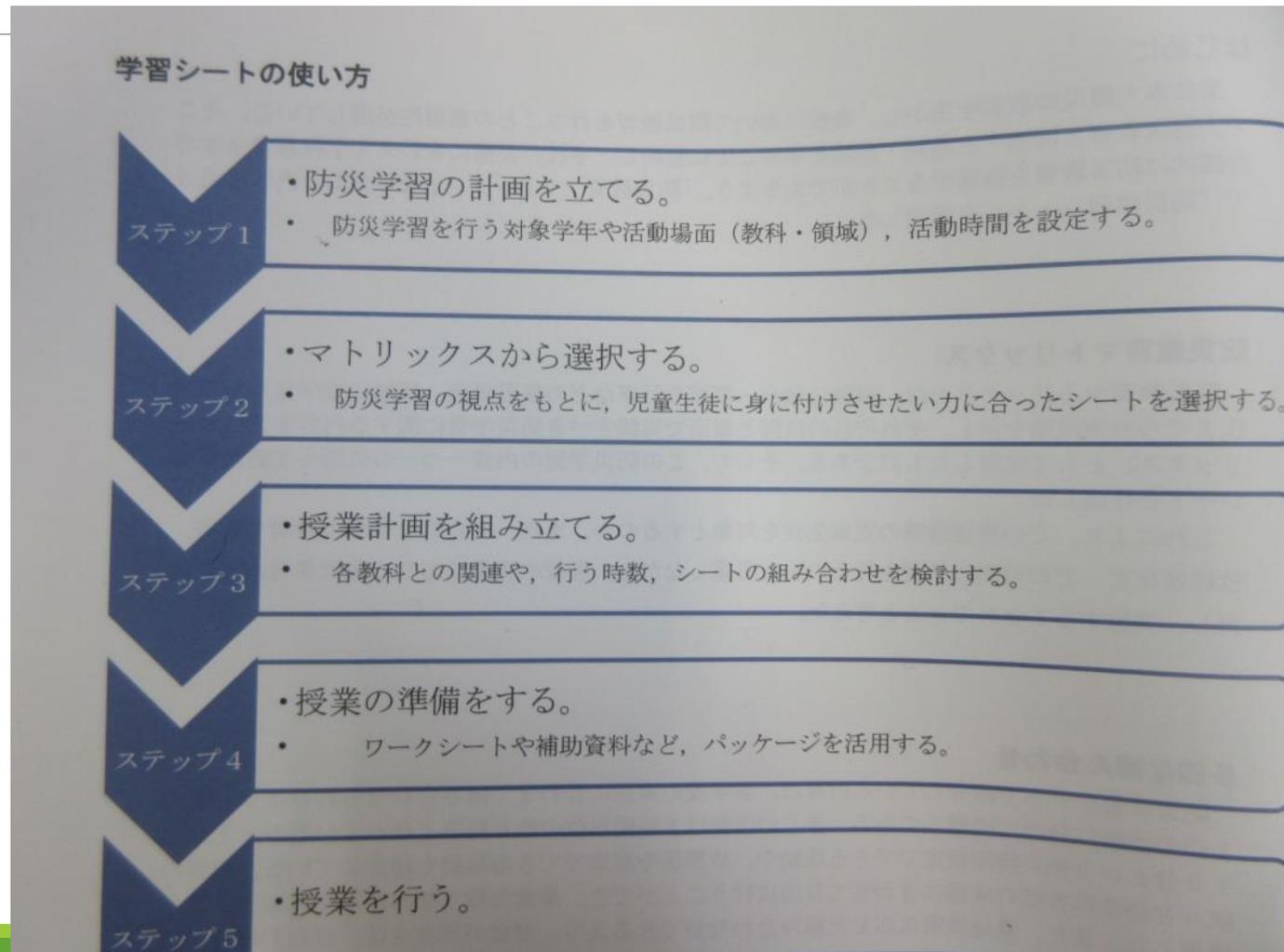
---

- ・気仙沼市教委、教育研究員作成の「防災学習シート」の活用を考える。
- ・つまみ食いでいいので、各校でのカスタマイズが必要である。ピックアップして並べて学びのストーリーを作ることが大切である。
- ・防災学習は長いスパンで取り組むことが重要で、9年間のスパンでの教科横断的なカリキュラムデザインが重要である。
- ・アレンジすれば、津波から、土砂災害、洪水にも変えて授業ができる。

## ②防災教育カリキュラムを考える



## ② 防災教育カリキュラムを考える



## ② 防災教育カリキュラムを考える

※今年度教育研究員として追加

表4 「持続可能な社会づくり (SD)」の構成概念を防災教育に対応させた構成概念

構成概念	防災教育の構成概念 (例)
自然・文化・社会・環境・経済 (人・文・取・化・関・巻・す・社・く・環・境・経・済)	<b>I 多様性</b> ◆地震や津波などの自然災害には、様々な特徴があること ◆自然災害は、地形や気象など多くの特色があること
	<b>II 相互性</b> ◆防災について計画、実践するためには、自分と自分を取り巻く「人」「自然」「地域」とのつながりが大切であること ◆防災は世界に共通する課題であり、相互の協力が必要なこと
	<b>III 有限性</b> ◆自然災害に対する人間の知識・能力には限界があること ◆震災時にライフラインの失われることを踏まえて、日頃から節制、節約の意識をもつこと
人間・集団・地域・社会 (人・集・団・地・域・意・社)	<b>IV 公平性</b> ◆震災時の生活において、誰もが互いの存在を尊重すること ◆どのような状況でも差別をすることなく、公正・公平に努めること
	<b>V 連携性</b> ◆地域の人々が協力して、災害の防止に努めていること ◆近隣の人々と避難方法について考えること
	<b>VI 責任性</b> ◆震災を乗り越え、新たな地域をつくりあげるためには、一人一人がその責任と義務を自覚し、自ら進んで行動すること

## ② 防災教育カリキュラムを考える

表5 ESDで重視する能力・態度を防災教育に対応させた能力・態度

ESDで重視する能力・態度	防災教育で重視する能力・態度 (例)
① 批判的に考える力	◆防災についての正しい知識や情報をもとに、それを比較・検討し、よりよい解決策を考える力
② 未来像を予測して計画を立てる力	◆過去の災害を教訓に、より良い未来を予想・予測・期待し、見通しや目的意識をもって計画を立てる力
③ 多面的、総合的に考える力	◆防災について自分、地域、社会など、様々な視点から考え、建設的な発想をすることができる力
④ コミュニケーションを行う力	◆防災に関する話合いで自分の気持ちや考えを伝えるとともに、相手の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力
⑤ 他者と協力する態度	◆災害時に、他者の立場に立ち、他者のことをよく考えて、協力・協働して行動しようとする態度
⑥ つながりを尊重する態度	◆防災学習を通して人同士のつながり、自分と地域とのつながりを大切にしようとする態度
⑦ 自ら進んで参加する態度	◆防災活動において自分の責任や役割を意識しながら、自ら進んで行動しようとする態度
⑧ 自ら考え行動しようとする態度	◆自分の置かれた状況をもとに、災害から自らを守る適切な方法について考え、行動しようとする態度 (※今年度教育研究員として追加)



## ② 防災教育カリキュラムを考える

防災学習シート(内容順)				
番号	防災学習シート	防災学習のサイクル	対象学年	
＜知識・日常の備え＞				
○避難するために				
13	火災に備えた避難訓練をしよう	知識・備え	低・中・高・中学	行事
14	地震・津波に備えた避難訓練をしよう	知識・備え	低・中・高・中学	行事
15	休み時間の地震に備えた避難訓練をしよう	知識・備え	低・中・高・中学	行事
16	下校中の地震に備えた避難訓練をしよう	知識・備え	低・中・高・中学	行事
31	地震・津波に備えて仮設住宅の方々と合同避難訓練をしよう	知識・備え	低・中・高・中学	行事
17	いざという時のために～引き渡し訓練	知識・備え	低・中・高・中学	行事
18	避難経路を確認しよう	知識・備え 判断・行動	低・中・高・中学	下校時
1	地震のときは、ダンゴムシになろう	知識・備え 判断・行動	低	行事・学活
2	校舎内の避難場所を知ろう	知識・備え	低・中	生活科・行
○災害の知識を得るために				
3	地域を知ろう～タウンウォッチング	知識・備え	低・中・高・中学	総合・生活
6	災害の種類やしくみを知ろう	知識・備え	高・中学	理科・学活
9	地震・津波のしくみを知ろう	知識・備え	中学	理科
20	地震の後には津波	知識・備え	低	行事・学活
21	身の回りの海拔を知ろう～ハザードマップ	知識・備え	中・高・中学	総合・行事
36	津波の特徴を知ろう	知識・備え	低・中・高	行事・学活
48	警報・注意報について学ぼう	【新】 知識・備え 判断・行動	高・中学	行事・学活
52	緊急地震速報を知ろう	知識・備え	高・中学	理科・総合
7	こんな時どうする？～図上演習(地震)	知識・備え 判断・行動	高・中学	行事・学活
26	こんな時どうする？～図上演習(火災)	知識・備え 判断・行動	高・中学	行事・学活
27	こんな時どうする？～図上演習(水害)	知識・備え 判断・行動	高・中学	行事・学活
50	こんな時どうする？～図上演習(竜巻)	知識・備え 判断・行動	高・中学	行事・学活
51	こんな時どうする？～図上演習(雷)	知識・備え 判断・行動	高・中学	行事・学活
○家庭・地域と連携した取り組みをするために				
4	防災マップを作ろう	知識・備え	中・高・中学	総合・行事
8	家族防災会議を開こう	知識・備え 判断・行動	高・中学	学活・総合
25	非常持ち出し袋の中身を考えよう	知識・備え	高	学活
32	防災グッズの有効性について知ろう	【新】 知識・備え	低・中・高・中学	学活・総合
45	「サバイバルカード」を作ろう	知識・備え	高	学活・総合
		知識・備え	高・中学	学活・総合

# ② 防災教育カリキュラムを考える

49	家族との連絡のとり方～災害伝言ダイヤル・災害用伝言板	知識・備え	判断・行動	高・中学	生活・学活
○防災センター・消防署と連携した取り組みをするために					
5	消防の仕事について学ぼう～防災センターの見学	知識・備え		中・高・中学	社会科・学活・総合・行事
22	初期消火体験をしよう	知識・備え		中・高・中学	行事
23	防災設備や備蓄庫を点検しよう	知識・備え		中・高・中学	社会科・総合・学活
40	バケツリレーをしよう	知識・備え		中・高・中学	行事
41	どう通報する？119番110番	知識・備え		中・高・中学	学活・総合・行事
○地域の災害について知るために					
12	地域の防災・復興の現状を学ぶ	【新】知識・備え	復旧・復興	中学	総合・行事
19	体験談を未来に生かそう	【新】知識・備え	復旧・復興	低・中・高・中学	学活・総合・道徳
24	まちの災害の歴史を知ろう	知識・備え		中・高	社会科・総合
43	つなみてんでんこ	知識・備え		高	行事・学活
44	ビジターセンター・津波体験館を使った学習	知識・備え		高	総合・行事
46	津波フィールドミュージアムを使った学習	知識・備え		高・中学	総合
53	津波から町を守る対策を知ろう	知識・備え		高・中学	社会科・総合
54	放射線について知ろう	知識・備え		高・中学	理科・総合・行事
63	災害時の心理を知ろう	知識・備え		中学	行事・学活・朝の会・帰りの
○異学年交流をしながら学ぶために					
37	「防災かるた」で遊ぼう	知識・備え		低	生活科・学活
38	防災を扱った絵本の読み聞かせ	知識・備え		低	国語・朝の会等
39	防災クイズを作って遊ぼう	知識・備え		中	総合・学活
64	「防災かるた」を作ろう	知識・備え	評価・発信	中学	学活・総合
<災害直後に役立つ技能>					
10	自分でできる応急手当で(救急救命法含む)	知識・理解	判断・行動	高・中学	保健体育・総合・行事
11	避難後の行動を考える	判断・行動	復旧・復興	高・中学	総合・行事
28	避難所設置訓練をしよう	【新】判断・行動		中学	総合・行事
33	紙で食器を作ろう	判断・行動		低・中・高・中学	生活・総合・行事
55	身の回りの物で担架を作ろう	判断・行動		高・中学	総合・行事
56	水をろ過して生活水を作ろう	判断・行動		高・中学	学活・総合・行事
57	作って食べよう！サバイバル飯	判断・行動		高・中学	家庭科・総合・行事
58	トイレ問題を考えよう	判断・行動		高・中学	総合・行事
59	避難所で寝る場所を作ろう(段ボールハウス)	判断・行動		高・中学	総合・行事
60	身近なもので灯りを作ろう	判断・行動		高・中学	総合・行事
<未来に向かって>					
29	ボランティアについて学ぼう	復旧・復興		高・中学	総合
30	未来の街を考えよう	復旧・復興		高・中学	総合・学活
34	仮設住宅の方々と交流をしよう	復旧・復興		低・中・高・中学	総合・行事 等
35	児童会・生徒会活動(校内)	復旧・復興		低・中・高・中学	児童会・生徒会・放課後等
42	未来に残したい！まちの宝物(伝統を守る)	復旧・復興		中・高・中学	国語・社会・総合等

## ② 防災教育カリキュラムを考える

No.25  
**非常持ち出し袋の中身を考えよう**

**学習の概要**

- ・非常持ち出し袋にいれておきたいもののランキングを作る。
- ・非常持ち出し袋の中身を覚える「暗記クイズ」を行う。

〈防災学習の視点〉

防災のステップ	・非常持ち出し袋に入れておきたいものを考え、災害時に自分の身を守ることができるようにする。
防災学習のサイクル	・災害時に備えて、非常持ち出し袋に入れて備えておくべきものを知る。
ESDの視点で育む能力・態度	・災害時に必要なものを予測して備えようとする態度を育てる。

〈活動の展開〉

活動内容	教師の支援	留意点
1. 教師が用意した非常持ち出し袋の中身を見て、使い方や必要性を確認する。 【非常持ち出し品の例】 ①水 ②懐中電灯 ③予備の電池(懐中電灯・ラジオ用) ④ラジオ ⑤非常食(3日分) ⑥アルミ毛布(防寒) ⑦常備薬(下痢止め、痛み止め等) ⑧軍手 ⑨ライター ⑩はさみ ⑪ビニール袋 ⑫衣類(下着・靴下等) ⑬タオル	・非常時に必要なものを1.3品程度用意する。  ・ワークシートを配り、自分なりに1位～1.3位までと、そのように考えた理由を書きこませる。	・中身の入った非常持ち出し袋を持ったり背負ったりして、その重さを体感させる。
2. 非常持ち出し袋の中身で「絶対にお使いおきたいもののランキング」を作り、そのラン		

No.26  
**こんな時どうする**

**学習の概要**

〈防災学習の視点〉

ESDの視点で育む能力・態度

- ・批判的に考える力
- ・未来像を予測して計画を

〈活動の展開〉

1. 自宅の

2. 火災が所に印を

3. 火災が行動す

時間の流

### ③ 階上小学校の実践に学ぶ

---

- ・階上中学校3年生が1年から4年生の教室に入って教師役となり防災の活動を行っていた。

（防災カード取り、ぬりえ、防災〇×クイズ、防災紙芝居）

- ・小学生にとってもプラスで、中学生にとってもプラスとなる活動となっていた。

### ③ 階上小学校の実践に学ぶ

---



### ③ 階上小学校の実践に学ぶ



### ③ 階上小学校の実践に学ぶ

---

- ・小4, 小5による防災マップづくりの発表会(自治会長、階上防災推進委員会、市危機管理室、警察官も入って合同での協議)を参観した。
- ・毎月11日は防災を考える日と指定されていた。
- ・児童たちは、11月に開催される総合防災訓練でも地元の区で、取り組んだ内容を発表する予定である。
- ・すでに小1は、震災後に生まれた子どもで、東日本大震災の教訓が活かされているのか、風化してしまわないのか等、考える必要がある。(学校長コメント)
- ・地域連携、学校連携が重要である。

### ③ 階上小学校の実践に学ぶ



### ③ 階上小学校の実践に学ぶ

---



### ③ 階上小学校の実践に学ぶ

---



### ③ 階上小学校の実践に学ぶ

---



### ③ 階上中学校の実践に学ぶ

---

- ・挨拶、エール、防災の3つが階上中の伝統。エールは22年間続いている。
- ・地域、大学と連携した防災教育を行っている。
- ・地域のみならずとともに防災のしくみをつくっている。(連携から参画へ)
- ・楽しい防災教育にすべきである。
- ・大学連携した住民意識調査の実施、そこから見える階上地区の課題について地域に生徒が出向いて調査依頼、結果や課題の伝達を行っている。
- ・中学生作成の避難所運営マニュアル(初期の初期に使えるように作成)を地域配布している。

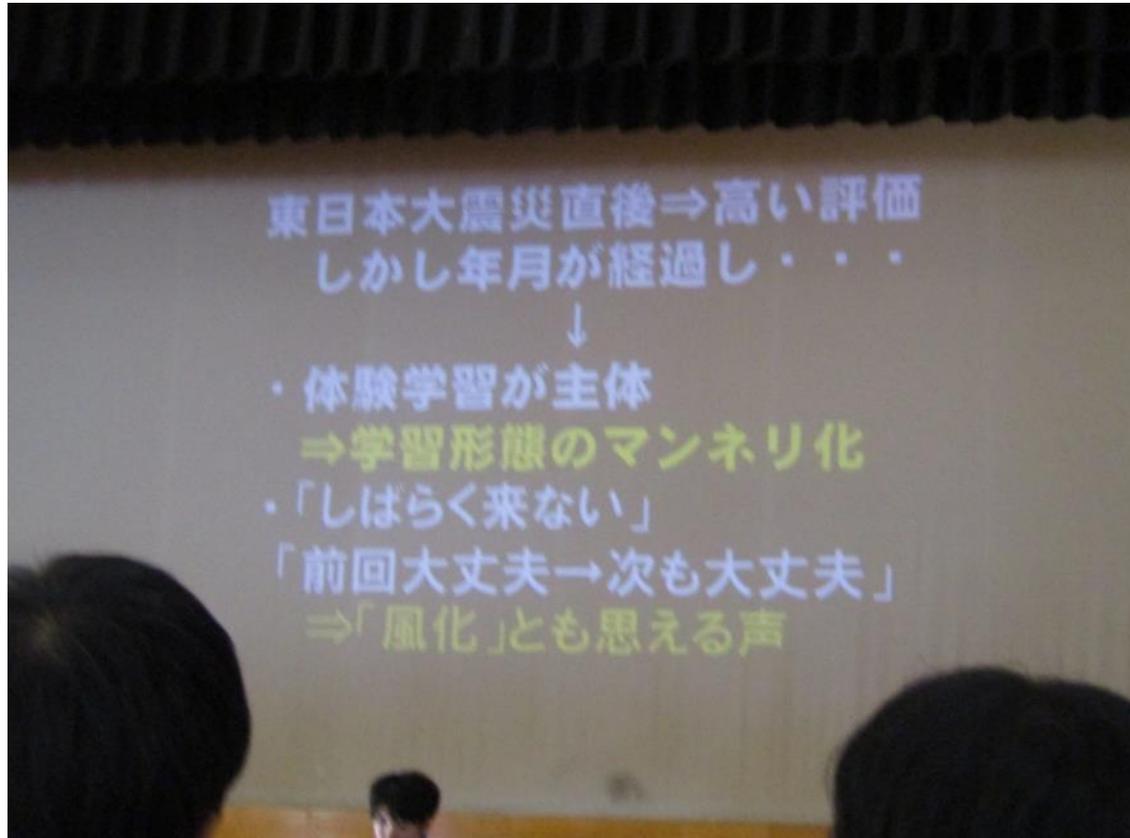
総務、防災委員が中心となり、各専門委員も役割分担して仕事を受け持っていた。
- ・防災教育を通して「生きるための学び」をしていて、それがESDとして、毎年受け継がれていた。

### ③ 階上中学校の実践に学ぶ

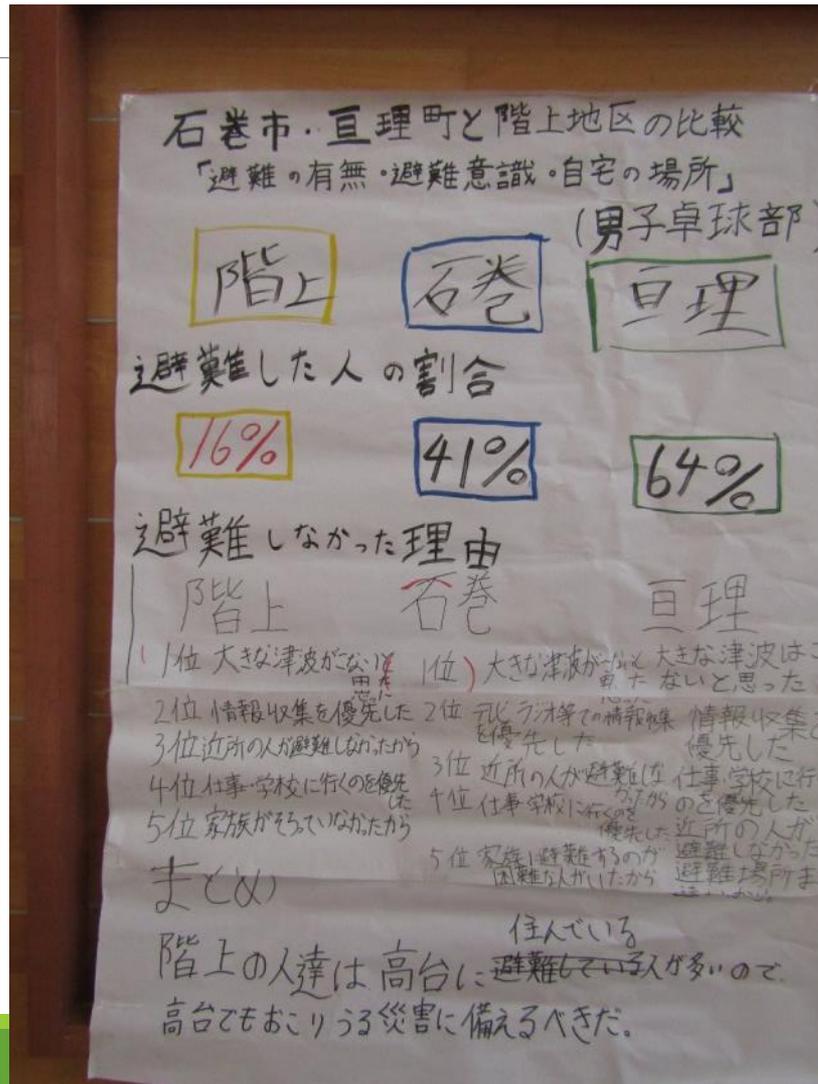


### ③ 階上中学校の実践に学ぶ

---



### ③ 階上中学校の実践に学ぶ



### ③ 階上中学校の実践に学ぶ

---



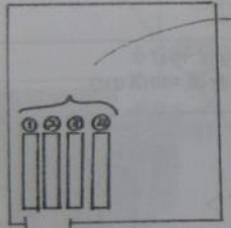
# ③ 階上中学校の実践に学ぶ

## 受付・誘導

活動内容 避難スペースへの誘導係 避難者リスト作成係

- ・生活と防災類への調整(確認)
- ・誘導の動き方
- ・受付の配置

4つの机を地区ごとに分担



- ① 原・最知
- ② 森・長磯原
- ③ 波路上・浜
- ④ 学区外(その他)

①～④は避難スペースへの誘導係  
各係は1人ずつ。  
小学生は受付を担当してもらいます。  
\*机はミーティングルームから。

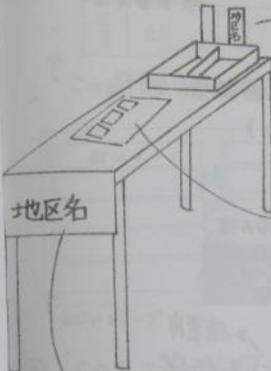
準備物

- ・A3の色紙10枚(4色) ・えんぴつ
- ・長机4つ ・ガムテープ ・マジック
- ・セロハンテープ ・空箱4つ

準備物は職員室や教室から持ってくる

10

## 受付の設置



地区名

避難者カードを入れるため  
用意した空箱に地区で  
区切りし置く。(2セットずつ)

避難者カードの書き方

空箱 えんぴつ等は  
体育館男子更衣室のロッカーに  
まとめて置いておく。

4つに分けた地区名を  
A3の色紙に書いて入り口側に貼る。  
\*外国の方は④の学区外



- ・ジャケットにはガムテープに係を書いたものを貼る。
- ・箱がある程度いっぱいになったら、  
もう一つの箱を代わりに置いて  
防災委員へ持って行く。  
(避難者リスト作成係)

11

### ③ 階上中学校の実践に学ぶ

---

・生徒の主体的な姿、自ら伝えようとする発信力が印象的だった。

(教員と生徒のQ&Aより)

(中学生の言葉)

地域や小学校とのつながりが大切だ

先輩からの引き継ぎ、伝統を大切にしている

現状維持は衰退だ

(自分の将来像についてのコメント)

防災のリーダーとして活動したい。地域の内外で発信したい。東日本大震災を伝えていきたい。DVDで実際の映像を見せたい。世界的な視野で伝えたい。多様な他者とコミュニケーションしたい。

### ③ 階上中学校の実践に学ぶ

---



# ④防災教育の推進を考える

---

「今回の学びのまとめワークショップ」で出されたテーマ

教員の意識 自助 共助 N助 防災体制

地域連携 学び方 学ぶ内容

防災カリキュラム 判断 伝統文化

主体的な学び 金 被災地への思い

つなぐ

# ④防災教育の推進を考える

---

## その1 カリキュラム作成

- ・学習指導要領に則って防災教育をどう入れていくか。
- ・どんな資質能力を身につけさせるか。
- ・カリキュラムに落とし込むことが大切である。

イベント型から日常の教育活動の中へ

発達段階に応じた9年間を見通したカリキュラムに

地域・関係機関との連携体制の構築(学校防災と地域防災の協働)

# 防災教育と新しい教育課程

育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念

「災害リスクの軽減/緩和への価値観と行動・態度」  
 防災の学びを通じた減災への能力・態度と互いに協働して復旧・復興にあたる力、災害後の持続可能な社会づくりに向けた態度などを育み、持続可能な社会の構築に貢献する。

「防災/減災への知識・技能」  
 各教科や領域の学習及び社会的な体験等を通じて、災害についての科学的で正しい知識や防災/減災への実践的な技能を身につける。

主体性・多様性・協働性  
 学びに向かう力  
 人間性 など

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

防災教育を通じた生きる力の育成

「防災教育の問題解決プロセス」  
 災害についての情報や教訓を他者と共有しながら、対話や議論、体験を通じて多様で地域根差した防災/減災の考え方や方法を理解したり、地域と協力しながら復旧や復興の問題を解決したりしていく「防災教育の学びのプロセス」を実現する。

何を知っているか  
 何ができるか  
 個別の知識・技能

知っていること・できることをどう使うか  
 思考力・判断力・表現力等

教育課程企画特別部会 審議のまとめ（素案）2016年8月1日 より作成

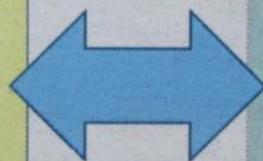
# ESDと防災教育の相乗効果（シナジー）

## 防災/減災教育の目的

1. 持続可能な社会の構築
2. 減災教育の質的向上
3. 減災の能力・態度育成
4. 減災ネットワーク構築

## ESDの学び方・学習手法

- ・ 探究的な学習
- ・ 問題解決的学習
- ・ 体験的な学習
- ・ 地域に根ざす学習
- ・ 総合・学際的学習



 ESDの学習手法の防災/減災教育への適用

防災教育マトリックス

	小学校		
	低学年	中学年	
教科	国語(1, 2年) ・目的に応じて読む No.38 防災を扱った絵本の読み聞かせ 生活科(1, 2年) ・安全な食下校 ・地域での安全な生活 ・公共物の安全な利用 No.3 地域を知ろう～タウンウォッチング No.2 校舎内の避難場所を知ろう 生活科(1年) ・自分でできること No.53 紙で食器を作ろう No.37 「防災かるた」で遊ぼう	国語(3, 4年) ・目的に応じて書く No.42 未来に残したい町の宝物 社会科(3, 4年) ・身近な地域や市 No.3 地域を知ろう～タウンウォッチング No.24 まちの災害の歴史を知ろう ・地域災害や事故防止 No.1 消防の仕事について学ぼう～防災センターの見学 No.23 防災設備や備蓄庫を点検しよう ・地域の人々の生活 No.43 未来に残したい！町の宝物	
道徳	・生命の尊重 ・郷土愛 ・新度ある生活態度 ・思いやり 親切 No.19 体験談を未来に生かそう【新】	・生命の尊重 ・郷土愛 ・思いやり 親切 ・尊敬感謝 ・勤労 社会への奉仕 No.19 体験談を未来に生かそう【新】 No.29 ボランティアについて学ぼう	
総合的な学習の時間		・横断的、総合的な課題 <地域の防災> No.5 消防の仕事について学ぼう～防災センターの見学 No.22 初期消火体験をしよう No.40 バケツリレー No.41 どう通報する？119番110番 No.23 防災設備や備蓄庫を点検しよう No.44 ビンクラーセンター～津波体験館を使った学習 No.39 防災クイズを作って遊ぼう	
特別活動	学級活動	・日常生活や学習への応応及び健康安全 No.1 地震のときは、ダンゴムシになろう No.20 地震の後は津波 No.65 心のサポート4アンケートの活用【新】 No.70 心のサポート4アンケートの実施【新】	No.36 津波の特徴を知ろう No.32 防災グッズの有効性について知ろう【新】 No.70 心のサポート4アンケートの実施【新】
	児童会・生徒会活動	・学校生活の充実と向上を図る活動 No.35 児童会・生徒会活動(校内)	
	学校行事	・健康安全・体育的行事 No.13～16 31 避難訓練 No.17 いざという時のために～引き渡し訓練 No.3 地域を知ろう～タウンウォッチング No.21 身の回りの物で担架を作る～ハザードマップ No.15 避難訓練	No.18 避難経路を確認しよう No.22 初期消火体験をしよう No.40 バケツリレー
朝の会 休み時間など	No.15 避難訓練 No.31 避難訓練	No.37 「防災かるた」で遊ぼう	
地域・その他	・地域防災活動 No.31 避難訓練	・交流 No.34 仮設住宅の方々と交流をしよう	

■ 防災学習必修シート

■ 防災学習推奨シート

	小学校	
	低学年	中学年
教科	社会科(5年) ・自然災害の防止 No.24 まちの災害の歴史を知ろう ・情報化社会と生活の関わり 社会科(6年) ・我が国の政治の働き 理科(5年) ・流れる水のはたらき ・天気の変化 No.8 災害の種類やしきみを知ろう 理科(6年) ・土地のつくりと変化 No.9 地震・津波のしくみを知ろう 体育(5, 6年) ・けがの防止と病気の予防 No.10 自分でできる応急手当 No.55 身の回りの物で担架を作ろう No.66 心のサポート4心からだのつながり【新】 No.67 心のサポート4不安なやみがあるとき【新】	社会科(地理的分野) ・自然災害と防災への努力 No.53 津波から町を守る対策を知ろう ・自然災害に応じた防災対策 理科(第2分野) ・大地の成り立ちと変化 No.9 地震のしくみを知ろう No.6 災害の種類やしきみを知ろう No.52 緊急地震速報を知ろう 保健体育 ・心身の機能の発達と心の健康 No.10 自分でできる応急手当 No.55 身の回りの物で担架を作ろう No.66 心のサポート4心からだのつながり【新】 No.67 心のサポート4不安なやみがあるとき【新】 ・気象とその変化 ・自然と人間 No.55 放射線について知ろう ・健康と環境 ・傷害の防止
道徳	・生命の尊重 ・郷土愛 ・社会的役割の自覚と責任 ・勤労 社会への奉仕 ・公徳心 No.19 体験談を未来に生かそう【新】 No.29 ボランティアについて学ぼう	・生命の尊重 ・役割と責任の自覚 異国生活の向上 ・郷土愛 人への尊敬と感謝 勤労 社会への奉仕 公徳心の自覚 No.19 体験談を未来に生かそう【新】 No.29 ボランティアについて学ぼう
総合的な学習の時間	・地域や学校の特色に応じた課題 <防災マップ> No.3 地域を知ろう～タウンウォッチング No.46 津波フィールドミュージアムを使った学習 No.4 防災マップを作ろう <家での防災> No.8 家族防災会議を開こう No.47 「安否札」を作ろう No.45 「サバイバルカード」を作ろう No.25 非常持ち出し袋の中身を考えよう No.49 家族との連絡の取り方～災害伝言ダイヤル	<ボランティア> No.29 ボランティアについて学ぼう No.34 仮設住宅の方々と交流をしよう <未来のまちづくり> No.12 地域の防災・復興の現状を学ぶ【新】 No.30 未来の街を考えよう <異学年・異校種交流> No.38 防災を扱った絵本の読み聞かせ No.39 防災クイズを作って遊ぼう No.64 「防災かるた」をつくらう
特別活動	No.7 28 27 30 31 32 こんな時どうする？～机上訓練 No.43 つなみてんてんこ	<書時の技能> No.33 紙で食器づくり No.55 身の回りの物で担架を作ろう No.56 水を通りて生活水を作ろう No.57 作って食べよう！サバイバル飯 No.58 トイレ問題を考えよう No.59 避難所で作る場所を作ろう No.60 身近なもので釘りを作ろう No.11 避難後の行動を考えよう No.54 放射線について知ろう No.22 避難所設備訓練をしよう【新】
朝の会 休み時間など	No.39 防災クイズを作って遊ぼう No.71 心のサポート4アンケートの活用【新】	・応応と成長及び健康安全 No.7 28 27 30 31 32 こんな時どうする？～机上訓練 No.48 警報・注意報について学ぼう【新】 ・学校生活の充実と向上を図る活動 No.35 児童会・生徒会活動(校内) No.61 生徒会活動(中学生代表者会議) No.43 つなみてんてんこ No.41 どう通報する？119番110番 No.23 防災設備や備蓄庫を点検しよう No.39 防災クイズを作って遊ぼう No.38 防災を扱った絵本の読み聞かせ No.39 防災クイズを作って遊ぼう No.71 心のサポート4アンケートの活用【新】
地域・その他	・ボランティア No.29 ボランティアについて学ぼう	No.63 災害時の心理を知ろう No.70 心のサポート4アンケートの実施【新】 No.62 生徒会活動(他校との交流) No.63 災害時の心理を知る No.63 震災時の心理を知る

■ 防災学習充実シート

■ 心のサポートシート

# ④防災教育の推進を考える

---

## その2 システム構築

### 校内体制

- ・教職員の意識向上、当事者意識

教職員自らの主体的に考え、判断し、行動できる力が必要

- ・継続した防災教育とするための教職員組織

教職員が勤務校の地域を知る、人を知る 共通理解

- ・危機時の学校対応の在り方、意思決定の在り方
- ・教育行政からの市内共通した取組

# ④防災教育の推進を考える

---

## その2 システム構築

### 地域との連携

- ・教職員がかわっても地域はかわらない。

「地域が支えるシステムに」

- ・児童生徒の学びを地域に広げる。地域で発信できる場をつくる。

「児童生徒を含めた住民での熟議、コミュニケーション」

- ・N助（NPO連携） 自助、共助、公助、N助

**「多様な主体との協働による豊かな学び」**

# ④防災教育の推進を考える

---

## その2 システム構築

### 小・中の連携

- ・ 発達段階に応じた9年間のカリキュラム  
    楽しく学べる教育活動に
- ・ 相互の交流活動
- ・ 粘り強く取組を継続

# ④防災教育の推進を考える

---

## その3 ガバナンス(統治またはそのための体制や方法) 政策的な支援

市レベルでは、教育委員会

学校では、管理職 のリーダーシップのもと、

- ・ 教員研修の仕組み
- ・ 予算措置
- ・ 担当などの人的配置
- ・ インセンティブ（ご褒美）
- ・ 条例、宣言、スローガン等の意思表示や広報

# 成果と課題

# 成 果

- ・災害や防災についての学びを深めることができた。
- ・自分たちの地域の危険箇所を実際に見て回ることで、児童の防災意識が深まった。
- ・学校での学びを家庭や地域に広げることで、家庭や地域の防災に対する意識も深まった。
- ・「防災キャンプ」「信太小学校秋季運動会」を地域とともに実施し、「地域とともにある学校づくり」を推進することができた。また、地域住民同士の交流が深まった。
- ・上記の2つの取組を、来年度以降も地区公民館、地域主体で防災運動会として位置づけて実施する方向で動きが出てきている。

# 課題

(学校として)

- ・「自らの命を守り抜くために主体的に行動することのできる児童を育成する」ための小中一貫した9年間のカリキュラム作成が必要である。
- ・防災教育を地域と連携して実施するための学校体制や教職員の意識改革が必要である。
- ・防災教育を推進していくためのガバナンス、管理職のリーダーシップ、学校マネジメント力が必要である。

# 課題

(地域として)

- ・今後の地域の防災活動に、地域住民が当事者意識、危機意識をもちながら主体となって取り組むことができるかどうか？
- ・地域自主防災組織が有事の際にうまく機能するかどうか？
- ・地域が少子高齢化してくるなかで、持続可能な組織的な防災活動が可能かどうか？

# 本年度中の取組

## ●自校における取組

- ・本年度の防災授業の実施  
防災マップ作成、非常持ち出し袋の用意等  
気仙沼市防災シートの活用  
(つまみ食い 1ストーリーの作成)
- ・9年間の防災教育マニュアルの検討
- ・地域と協働した避難マニュアルの検討  
(持続可能な防災マニュアル)
- ・N助の可能性の検討 (NPOの活用)
- ・小中連携した防災授業の計画

## ●信太地区での取組

- ・防災キャンプの反省、来年度の計画  
(防災キャンプ+防災運動会)

# 本年度中の取組

- 校長会、研修会等での取組
  - ・ 研修の報告、提案等
  - ・ 教員研修会での報告
    - 被災地の状況、思い等を伝える
    - (五感で学んだ内容伝達)
    - E S D と新学習指導要領と防災教育の共通項目の説明
    - 地域と連携した防災の取組
    - 小中一貫したカリキュラム作成等
  
- 市危機管理室、市民全体での取組
  - ・ 火起こしペール缶の防災倉庫への保管について
  - ・ 市自主防災会への報告、提案

**ご清聴ありがとうございました**

